

日本語能力試験

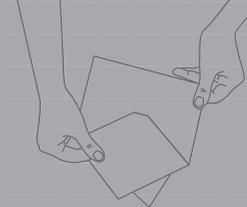
N1 対応

日本語で考えたいくなる

# 科学の問い<sub>下</sub>

— 心と身体篇 —

「調べる・考える・伝える」ための探究・活動型日本語教科書



## LABCAST の アクティビティハンドブック



## 日本語は曖昧で非論理的な言語なのか？

ACTIVITY  
アクティビティ

考えよう

日本語は曖昧だと感じる場面や例を挙げてみよう。

本文の内容に入る前に、読者自身の経験を振り返り、スキーマを活性化させるための活動です。具体的な場面について挙げ、母語や他の言語の場合とどのように異なるかについて、考えましょう。

## 意見の例

- ・特に日常的な断りの場面で、曖昧だと思うことがある。登場人物のアイの発言にもあるが、例えば、食事会に誘ったときに「絶対、行きたい！」とまず返事があって、その後、少し時間が経ってから「ちょっと予定が入ったかも」などの連絡を受け取ったことがある。行きたいのなら調整しようと思い、こちらから食事会を別の日にしようとしたが、その都度、「予定がある」「体調が悪い」と行けない理由が返ってくる。よくよく話を聞いてみると、そもそもあまり行きたくなかった様子で、興味がないなら最初から曖昧な言い方でなく、はっきり気持ちを教えてほしいと思った。
- ・日本語には、「～んじゃないかと思う」「～のではないだろうか」など、否定形を使って婉曲的に意見を述べる表現が多いと感じたことがある。他にも「かもしれない」など、自分の考えを柔らかく伝える表現が多い。そのため、場合によっては曖昧に感じられるのだと思う。

調べよう

日本語に向けられた批判や改革論には、どのようなものがあったか。キーワードを用いて調べてみよう。

Cinii や新聞雑誌記事検索を用いて「国語国字問題」「仮名文字運動」「ローマ字運動」などのキーワードで調べるアクティビティです。近代化の過程で、日本では日本語の表記や使用をめぐって、多くの学者や文化人が日本語改革論を唱えました。インターネットで情報を調べ、どのようなことが主張されたのかをまとめましょう。本文にもいくつか例が記されていますので、それらも参考にしてください。

## 例

- ・「国語国字問題」は、明治時代に生じたトピックで、漢字を廃止するかどうかなど、国語（日本語）を改良することを議論したものであるようだ。1866年に前島密が徳川慶喜に対して、『漢字御廃止之儀』を提出したのが初めだとされている。西洋文明を取り入れるためだけでなく、日本人の愛国心を高めることも目的であったとされており、背景には、当時の日本と中国と西洋との関係の変化があったとされている。
- ・「仮名文字運動」は、国語の正書法として漢字を廃止して、仮名だけを用いて横書きするべきだとした一連の運動のこと。日本の実業家で言語政策研究家、外交官でもあった山下芳太郎がその代表的論客の一人として知られている。1920年に『国字改良論』を出版、同年に「仮名文字協会」を設立し、仮名文字運動の方向を導いた人物だとされている。
- ・「ローマ字運動」は明治初年以來行われているローマ字を国語表記の文字として採用しようとする運動のこと。国語の文字をすべてラテン文字にすることが提唱され、日本の近代化に伴う言語改革を象徴する事例としてよく知られている。日本語の国際化の理念が含まれる運動とされる。

話し合おう

外国語を学ぶ中で、母語よりも論理的に考えやすい、表現しやすと感じたことはないか。また、黒板の実験結果が、日本語は劣っているとする議論にどのような視点を与えてくれるかについて意見交換しよう。

今までの外国語学習を振り返り、外国語を学ぶことや外国語で読む・書く・話す・聞く活動を行うことがもたらす視点について話し合う活動です。特定の言語がよい悪いという議論を超えて、外国語を学ぶことがもたらす力について考え、視野を広げることを意図しています。一般に広く指摘される日本語の曖昧さなども、外国語効果の観点で考えると新しい発想で捉えることができます。ささいなことでも構いませんので、具体的な事象を出し合い、お互いの意見を交換しながら話し合しましょう。

## 意見の例

- ・今、私は日本語を外国語として学んでいる。母語をとっても大切にしているが、日本語のように外国語を学ぶ意義も感じていて、実験結果を知ってよりその気持ちが大きくなった。例えば、謝罪表現や依頼表現は、私の母語よりも日本語のほうが、バリエーションが豊富なので、謝るときに相手にかけた迷惑の度合いを論理的に考え、適切な表現を選択することができる。この謝罪や、あるいは依頼、断りなどの場面では、外国語である日本語のほうが自分の気持ちや相手への申し訳なさを表現しやすと感じる。また、母語を使用する場合も、日本語を学んだことで、相手を細やかに配慮して考えることができるようになってきている気がする。自

分自身もなんとなく日本語が曖昧で欠落した部分があるような印象を抱いていたが、実験結果を読んで、まったく別の発想で日本語や他の言語を捉えることができるようになった。特に、外国語効果に関する実験結果は、「日本語だから」「～語だから」ということではなく、母語か外国語かで考え方や表現の方法に影響があるという興味深い視点を与えてくれるように思う。外国語で考えたほうが、バイアスが弱まるというのは興味深い。最初に述べたように、自分の母語はとても大切にしているが、日本語をはじめとする外国語学習をする意義も改めて感じた。

• 黒板の実験結果によると、外国語より母語のほうが、バイアスが大きくなり、言葉の表現に惑わされやすいという。そこから、ある言語(例：日本語)自体が、劣っていると単純に言い切れない可能性が考えられると感じた。外国語としてその言語を学んでいると、単語を構成する文字と意味の関連性や、文法的な特徴についてまで意識的に考えることができる。そのため、実験文に出てきたような“書き方は違うけれど同じ内容”の文を読んでも、中身が同じであることに気づきやすいのだと思う。個人の中に複数の言語があるということは、それだけ発想の豊かさにも繋がることなのだと考えられる。

Lesson  
10

「失語症」の症例から我々は人や社会について何を学べるのか？

LABCAST  
ACTIVITY  
アクティビティ

書  
こ  
う

日本語の**隠喩**(メタファー)の例を三つ考えて、  
ノートに書き出してみよう。

隠喩という専門的な用語を具体的な文脈で理解するための活動です。ノートに書き出したものは、教室での授業であれば黒板やホワイトボードに、また、オンライン授業であればチャットツールや画面共有ツールでシェアすると、お互いの知識から新たな表現を学ぶことができます。また、時間的に余裕がある場合は、母語で意味の近い表現をするときには、その母語でどのような隠喩(メタファー)を用いるか、日本語に直訳しながら紹介する活動を交えると、さらに発展的なアクティビティを行うことができます。

例

• 人生はマラソンだ。(人生は時間をかけて築き上げるもので、一瞬のスピードを競い合う短距離走ではなく、長い距離を一步一步積み重ねて走る長距離レースのようなものだ、という意味)

- 兄は一家の大黒柱として家族を支えてくれた。(「大黒柱」とは、家の骨子を支える中央の太い柱を指し、隠喩として用いられる場合は家族や組織の支えとなっている人という意味)
- テレビタレントの不適切な発言でネットが炎上した。(「炎上」とは、火が燃え上がること、とりわけ大きな建物が燃えることを指し、隠喩として用いられる場合は、インターネット上で多くの批判的コメントが書き込まれることや、メディアなどで批判が巻き起こること、個人や組織などに批判が殺到することなどを意味する)

考えよう

日本語の**換喩**(メトニミー)の例を挙げて、  
意味がどのように**拡張**されているか考えよう。

前の活動に引き続き、換喩について具体的な文脈の中で考えるための活動を行います。換喩とは、比喩法の一つとされるもので、ある事物を表現するときに、それと関係の深い別の事物で表す方法のことです。例えば、「今日はキムチ鍋にしよう」の鍋とは、鉄の鍋そのもののことではなく、鍋を使って作る料理のことを指しています。この活動では、日本語の換喩表現において意味の拡張がどのようになされているかを考えることで、より発展的な話し合いを行います。

意見の例

- 洗濯機を回しているの、手が離せない。(「洗濯機を回している」は、洗濯機を使って洗濯しているという意味。洗濯機の中で洗濯物を洗浄する桶が回っている様子から意味が拡張されている。)
- 小室哲哉をよく聴く。(小室哲哉が作った音楽をよく聞くという意味。作曲家以外にも、「ビートルズをよく聴く」のように、作曲したグループや演奏しているグループから意味が拡張されて使われることもある。)
- 風呂が沸いた。(風呂のお湯が熱くなった(入るのにちょうどよい熱さになった)という意味。風呂の温度が摂氏100度になったというわけではなく、風呂のお湯がだんだん熱くなる様子から意味が拡張されている。)

話し合おう

以下の**類義語**について、どのような点に**差異**があるのか  
話し合ってみよう。

父母・両親    座る・腰掛ける    時間・時刻

類義語の使い分けについて調べ、話し合う活動です。それぞれの語の使い方の違いについて、普段どのように意識しているか、また、辞書や参考書、資料ではどのように解説されているか調べ、話し合しましょう。

## 意見の例

- 自分の親について説明するときは「両親」を使っている。「両親」は、両方の親という意味で父親と母親のことを指す。それに対して、「父母」は父と母という意味だそうだ。調べたところ、「父母」は主に学校などで使われる言葉で、書き言葉として使われるという。
- 「腰掛ける」は「椅子・台・段などの上に腰を下ろす」という意味で、「座る」とほぼ同じ意味だが、床にそのまま座る場合は「腰掛ける」ではなく、「座る」を使うそうだ。なお、日常会話では「座る」のほうが多く使われる。
- 「時刻」は「時間の流れの中の一点」という意味で、決まった時間を表すものに使われ、例えば、「電車の時刻表」(出発と到着の時間点)などで使われる。「時間」は意味の範囲がより広く、「時間がない」「時間を節約する」などに使えるが、「時刻」は使えないということだ。

## Lesson 11

### 社会の「絆」は人々の心を救うことができるのか？

#### ACTIVITY

#### 調べよう

居住している国や地域における自死予防のための法律・制度について調べ、どのような内容か確認しよう。

国や地域の自死予防のための法律や制度、体制や事業について調べることを通じて、自死が社会問題としてどのように認識され、課題化されているかを理解するための課題です。自死の問題がそれぞれの国や地域においてどのように捉えられ予防に取り組まれているか、現状を共有します。

#### 例

- タイ王国では、政府の保健省に「精神健康局 (Krom sukhaphapcit)」が設置され、健康に関する情報の収集と提供業務と共に、自殺防止事業を行っている。仏教国であるタイでは、精神の健康においては、特に仏教実践の重要性が挙げられており、高僧による解説や瞑想修行の実践事例を掲載した雑誌など発行され人々の心の支えとなっている。
- 中国では、2014年に北京心理危機研究・干渉センターによって、「うつ病・自死予防」セルフサービスプロジェクトがスタートした。携帯電話やウェアラブルデバイスなどを利用して、アプ

リを使って自身の状態を調べ、状態をよくするための方法や情報をチェックすることができる。人々の心の状態の変化や苦しみの早期の発見とケアに効果を発揮している。

- チリ共和国では、2005年に「国民のヘルスケアの保証 (Universal guarantees in health care)」という法律が新しく制定され、2006年に「ユニバーサルアクセス (AUGE)」という医療制度が開始された。この新しい医療制度では、自死に繋がる重要な危険因子である四つの精神障害も対象となっており、国民のメンタルヘルスケアの改善に貢献しているとされる。

#### 書こう

九つのプログラムから一つ選び、居住する国や地域の具体的な取り組み状況を調べ、書いてみよう。(※ 400字程度)

世界保健機関 (WHO) によって公開されている報告書に掲載されている予防プログラムの九つの目標を観点として、具体的な取り組みの状況を調べ、書いてまとめる活動を行います。居住する国や地域では必ずしも目標を掲げた取り組みが行われているわけではないため、九つの目標はあくまでも観点として示し、関連する取り組みを調べても構いません。

#### 例

- 「リスクの高い人々を特定し、特別なサポートを行うなど注意を払う」目標について、調べた。WHO (世界保健機関) の2016年の調査によるとタイの自死者数は10万人当たり14.4人で、東南アジアでは最も多い。さまざまな対策が行われている中で、メンタルヘルス問題の十分な理解の促進のために、地元の実業家によって、専門医師の相談を直接受けられる「Ooca」というアプリが開発され、現在6万人以上が使用しているそうだ。
- 「メディアに対し、よりよい報道の指針と実践の導入方法を示す」目標について、日本の取り組みを調べた。日本では、自殺総合対策推進センターによって、『自殺対策を推進するためにメディア関係者に知ってもらいたい基礎知識 2017年最新版』(※ WHO「Preventing suicide: a resource for media professionals, update 2017」の日本語訳版)という冊子が公表され、メディア関係者に向けた自死予防対策を推進するための最新の手引きとなっている。そこでは、メディア関係者がやってはいけないこととして、次の6項目が明示されている。①「自殺の報道記事を目立つように配置しないこと。また報道を過度に繰り返さないこと」、②「自殺をセンセーショナルに表現する言葉、よくある普通のこととみなす言葉を使わないこと、自殺を前向きな問題解決策の一つであるかのように紹介しないこと」、③「自殺に用いた手段について明確に表現しないこと」、④「自殺が発生した現場や場所の詳細を伝えないこと」、⑤「センセーショナルな見出しを使わないこと」、⑥「写真、ビデオ映像、デジタルメディアへのリンクなどは用いないこと」。以上である。

話し合おう

誰一人追<sup>お</sup>込まれることのない、温<sup>あたた</sup>かく生きやすい社会の  
実現<sup>じつげん</sup>に向け、日々の生活の中でできることは何か。  
考えて話し合おう。

上記二つの活動で調べたことを踏まえ、個人レベルでできることを考えるための活動です。調べたことを踏まえることで、具体的なアクションプランを考えます。調査でわかった課題を共有し、その解決策を考えながら話し合いを進めると意見が出しやすくなります。

#### 意見の例

- 必要な情報をインターネットですぐに得られる社会は理想的にも思えるが、一方で、直接的な人と人との関わりが少なくなっているようにも感じる。それと共に、他人に関心を持たなくなっている人が多くなってはいないだろうか。インターネットやスマートフォンが悪いということでは決してなく、むしろそれによって改善されることは多々あると思うが、その反面で不具合が生じていることにも留意すべきだと思う。例えば、苦しんでいる方々がアプリなどを通し、匿名性を保ったまま相談できる体制を整えることは非常に意義深いだが、その一方で、直接的な交流が薄くなりがちな状況を改善するために、人と人が違いに関心を持ち、声をかけ合うなどの行為を、日々の生活の中で意識的に行っていくことが必要なのではないか。電子機器を通してではない直接的なコミュニケーションを増やすということに取り組んでみたいと考えている。
- 家族や友達から心の病気や大きな問題を抱えていると相談を受けた場合、一人で抱え込まず、専門家に相談するよう促すことも重要だと思う。そのためには、普段から他人事だと思わず、自死予防に関する知識や公的相談機関の情報などを把握しておく必要がある。

Lesson

12

## 紙の本、手書きのノート、対面での会話は時代遅れなのか？

1ARCAST  
ACTIVITY  
アクティビティ

考えよう

手書きとパソコンのどちらが、記憶に残りやすいと思うか。  
自身の経験<sup>きん</sup>を踏まえて考えよう。

テーマについて自分自身の経験を振り返って考えるための活動です。ただ単に個々人の意見を聞くのみですと「手書きのほうがいい」という答えで終わってしまうこともあります。今までの学校生活や日常の場面を思い出し、どのような場面でそれぞれ手書きとパソコンのどちらを使ってきたか、その目的は何だと考えられるかなど、より具体的な事例をイメージしながら考察することが大切です。

#### 意見の例

- 手書きのほうが、記憶や印象に残りやすいと思う。例えば、クリスマスカードやバースデーカードは手書きで書くが、受け取った側はもちろんのこと、書いた側も手で書いたカードや手紙は何をどのように書いたか、内容や書いた文字の様子までよく覚えている。一方で、チャットメッセージやEメールで書いたものは手書きに比べると何を書いたか覚えていないことが多いと感じる。
- 暗記したいものがある場合は手書きがよい。日本語の単語も、書いて覚えてきたし、自分がその単語を書いたときのことなどはよく覚えている。辞書で調べるときもなるべく紙の辞書を使って調べたときに得た情報や気づいたことを辞書にも手書きでメモしたりアンダーラインを引いたりしている。これも、調べたことの記憶を強化するためにしていることだ。
- 普段、授業でノートをとるのにタブレットを使っているが、配布資料などに電子ペンを使ってメモを書き込むと、記憶に残ると感じる。紙に書くというより、手を使って書くことが大切なのだと思う。

調べよう

なぜ、手書きのほうが、記憶力が持続<sup>しぞく</sup>するのか。  
他の先行研究を調べよう。

Google Scholar、CiNii は、公刊されている学術論文を調べるためのデータベースです。他のデータベースと同じように、キーワードや著者名、タイトルなどで論文を検索することができます。まずは、「手書き」「記憶」「ノートテイキング」などのキーワードで検索してみましょう（読者の母語で別のデータベースを使って調べても構いません）。ヒットした文献の本文をすべて読むのが難しい場合は、要旨からだいたい内容を把握する形で問題ありません。調べたことを他者と共有する場合は、どうしてその研究に興味を持ったのかも説明できるようにしておくと、情報交換や対話に広がり生まれます。

#### 例

- ノートテイキングと記憶との関係について調べた魚崎(2014)によれば、講義中に資料に多くの書き込みを行った学生のほうが、講義で解説された内容を再生できる量が多いという。研究では書き込みをする際に情報の取捨選択が必要になるため、選んだ情報が記憶に残りやすくなったのではないかと考察されている。このことから、手書きの過程において情報を取

捨選択する段階が加わることが記憶力の持続に関係すると考えられる。

(※魚崎裕子 (2014)「短期大学生のノートテイキングと講義内容の再生との関係：教育心理学の一講義を対象として」、『日本教育工学会論文誌』38 巻, pp. 137-140)

- ・蔵富・坂田 (2018) は、タイピングと手書きの記憶について高齢者を対象とした実験結果を報告している。漢字を手書きで書いた場合とタイピングで入力した後の記憶の保持について実験を行った。パソコンなどで日常的にタイピングを行なっている人(タイピング経験がある場合)とパソコンなどを使ったことがない人(タイピング経験のない場合)とを比較した結果、タイピング経験のある人がタイピングした場合は、手書きよりも成績が低く、タイピング経験のない人がタイピングした場合は、手書きとの成績の差が見られなかったという。つまり、タイピング経験のない高齢者は、タイピングをしながら学習しているため、タイピングで入力した場合でも、手書きと同様に記憶が持続したのではないかということだ。この結果から考えると、考えたり間違えたりするという経験そのものが、記憶の強化に繋がっているのではないかと考えられるのではないかと。

(※蔵富恵・坂田陽子 (2018)「高齢者のタイピング経験が記憶学習に及ぼす影響」、『日本デジタル教科書学会発表予稿集』7, pp.7-8)

話し合おう

手書きや紙媒体には他にどのようなメリットや効果があるか。また、それをデジタル社会でどう活かしていくべきか、話し合おう。

上の課題で調べた内容を踏まえて、手書きや紙媒体のものを用いる全体的なメリットや効果を考え、今後の社会に活かしていく方向性を考えるための活動です。手書きのほうが記憶に残りやすいとは言われてはいるものの、その理由については、まだ研究途上の段階です。それぞれが調べた研究事例を共有し、指摘されていることを踏まえた上で、自らの経験も振り返りながら話し合いを行うと、実情に即した意見交換ができます。

#### 意見の例

- ・先日、大規模な停電を経験した。発電所の発電量に対し、需要が上回る危険性があり、計画的な停電が実施された。夜だったのだが、建物の明かりや信号、電灯も消え、本当に怖かった。私は基本的にメモなどはすべてデジタル機器で記録していて、スケジュールや電話番号なども PC やスマートフォンで記録している。停電が長引くにつれ、バッテリーで駆動していた機器も使えなくなり、すべての情報にアクセスできなくなってしまう不安を感じた。手書きや紙媒体は、その点では、非常に強い。また、調べたところ、災害時などの掲示も、手書きや紙媒体が効果を発揮するようだ。現時点でも、社会では、手書きや紙媒体が日に日に少なくなっているが、デジタル機器が使えない状態に陥ることがあるため、部分的にはきちんと残すべきだと考えられる。

- ・手書きや紙媒体が持つ芸術性にも目を向けるべきだと思う。いかにデジタル化が進んでも、美術品や工芸品もすべてデジタルでよいということにはなっていない。このことは、ハンドメイドの持つ価値を示していると思われる。つまり、手書きや紙媒体には、手作りであること、一点ものであることの価値があると考えられるのである。デジタル社会においても、デジタル化されていない複製することができないものの価値を忘れてしまわない必要がある。
- ・紙に手書きのほうが物理的に必要とする道具やエネルギーが少なく、求められるスキルも高くない。デジタル社会においても、パソコンなどのデバイスの利用スキルがない人や、事情があって使えない人がいる。このことを考慮すると、紙に手書きで書けるようにすべき場所は必要であると思う。例えば、病院、警察署、区役所、銀行など、様々な年代や背景、ルーツを持つ人が使う場所は、特別なスキルがなくても済むようにすべきだ。今後、デジタル社会が進展しても、代替手段として手書きや紙媒体を用意したほうがよいと思う。

Lesson  
13

## 頭脳明晰な人々も大きな失敗をするのはなぜか？

PODCAST  
アクティビティ

ACTIVITY  
アクティビティ

調べよう

一般的に知能が高いとはどのような特徴を持つことだと考えられているか、調べよう。

一般的に「知能が高い」と言ったときの判断基準は何かを考え、共有するための活動です。辞書やネットの情報を調べてもよいですし、簡単なアンケート調査を行って、一般的に連想される語を考えてもよいでしょう。活動のポイントは、「知能の高さ」と一口に言っても、多様な観点や価値観があることに気づくことです。

#### 例

- ・『明鏡国語辞典』によると、「知能」の定義は、「物事を理解し判断する頭の働き」だそうだ。このことから考えると、知能には、理解する上での理解力、および判断する上での判断力の二つがあると考えられる。「知能が高い」と聞くと、スピードの速さが連想されるため、一般的には、短い時間の中で理解したり判断したりする力と考えることが多いと思う。
- ・「知能が高い」をネットで調べたところ、「知能が高い」イコール「IQが高い」と考えられる傾向が見られた。例えば、「物覚えがよく、記憶力が高い」「理解力が優れており、物事の本

質を理解するのが速い」「何を勉強してもすぐマスターできる」などが挙げられている。

話し合おう

めいせき  
明晰であればこそその判断ミスや認識不足について、  
みぢか  
身近な例を挙げて話し合おう。

実験紹介にある「IQが高い人は『無駄な情報』を無視して『重要な情報』に集中する傾向がある」という点について、日常の具体的な文脈の中で理解を深めるための活動です。大きな判断が求められる場面では周辺情報はノイズとして切り捨てられがちですが、それにより問題が起きることもあります。本文にも具体例が挙げられていますので、そちらを確認してから活動を行っても構いません。

#### 意見の例

・サークルの代表をしている先輩は、いつも物事を的確に判断する人だが、活動の方針を決める際などに、頭の回転が速い人だけで議論を進めてしまい、話についていけない人のことを忘れてしまうようなことがある。話についていけない人は、物事を慎重に考えていたり、他にリスクがないか考えていたりするため、そうした人の考えも大切だと思う。頭脳明晰な人は、判断に集中するあまり、自分より理解に時間がかかる人がいるということをおぼえてしまいがちなのではないかを感じる。また、そうした場合に、決定することによって生じるデメリットやリスクを見落としてしまうこともあるのではないかと思う。

書く

そしき  
組織や自分が所属するグループの中で、愚鈍さが効果を  
はっき  
発揮する場面を考え書いてみよう。(※400字程度)

前の活動で調べた内容や話し合った内容をもとにしながら、400字程度で意見文をまとめる課題です。話し合った内容をもとに、以下の①から③について、まずは箇条書きでメモをし、情報を整理するとよいでしょう。①一般に「知能が高い」人についてどのような認識があるか。②そのような人の判断ミスや認識不足で問題が起きる場面としてどのようなものが考えられるか。③「知能が高い」わけではない人の「愚鈍さ」はどのように役に立つか。

メモをもとに話し合い、論理展開に気をつけて書くという流れにすると、無理なく書くことができます。

#### 例

- ①『明鏡国語辞典』によると知能の定義は、「物事を理解し判断する頭の働き」である。一般的には、知能が高い人は、理解や判断を素早く行うことができると考えられている。
- ②素早い判断を求められる場面では、実験結果にあるように、不要な情報をノイズとして消し

去る思考が求められる。このことは合理的に判断する上で一見素晴らしいことのようにも見えるが、一方で問題が生じることもあるように思われる。例えば、著名人が公的な講演会などで、不適切な発言をして炎上する事例が後を絶たない。こうした事例の一部には、頭の回転が速い人が目の前の聴衆を喜ばせようとして、それ以外の人に目が向かず、場合によっては傷つけるような不用意な発言をしてしまうことで起こるものもあるのではないかと考えたことがある。あるいは、別のケースでは、企業が利益を追求しすぎるあまり、環境への負荷が高まる行為や、健康被害に繋がるような行為をしてしまうことがあるが、その過程で判断した人々は、知能が高い人がたくさんいたと思われる。ただ、その判断の中で見過ごされてしまったことがあり、問題が起きたのではないかと考えられる。

- ③本文でも述べられているように、「愚鈍さ」という、一見、頭脳の明晰さや知能の高さとは真逆の要素も、物事の判断や行動には不可欠であるように感じる。知能が高く、目的達成のための手段やプロセスを考える上ではまったく他者の意見を聞く必要はない人であっても、そこで行われる判断によって生じるデメリットやリスク、あるいは、様々な属性の人々がどう受け止めどう感じるかなど、じっくりと考えなければならぬだろう。そうした時に、表面的には非合理的なものごとや考えが、思わぬ発想や発見をもたらすこともあると考えられ、愚鈍さが効果を発揮する可能性があると思われる。

Lesson  
14

## 人はなぜ「陰謀論」を信じるのか？

CAST

ACTIVITY  
アクティビティ

考えよう

いんぼうろん  
陰謀論にはどのようなものがあるか。知っている事例、  
または、自身や周りの人が見聞きした事例を挙げてみよう。

インターネット上などで展開されることの多い様々な陰謀論にあたる言説の中から、読者の生活の中で触れる身近な陰謀論について考える活動です。本文ではアメリカの事例が挙げられているため、自身の出身地域や日本に関するものをインターネット上の記事や雑誌記事検索システムなどで調べ活動を進めましょう。

#### 意見の例

- ・日本で有名な未解決事件として「三億円事件」がある。1968年に東京都府中市で金融機関の現金輸送車が、警察官に変装した男に呼び止められ、車に爆弾が仕掛けられているから避難

するように言われ車から離れたところ、車ごと三億円が奪われたという。その後、犯人は捕まっていないが、この事件は、当時活発化していた学生運動を抑えるためにでっち上げられたもので、犯人を探す名目で行われた捜査で多くの個人情報が集められていたという陰謀論が存在する。私はこの陰謀論を題材にした漫画作品で、そういう説が存在することを知った。私自身はそれをまったく信じてはいないが、過去に生じた一つの出来事が、当時の社会状況や自分がよく知っている他の出来事などと密接に関わっていたという説に触れたときに、人が強い関心を持つことを実感として感じた。

調べよう

いんぼろん きいん  
陰謀論は何に起因し、なぜ広がるのか、調べよう。

陰謀論が広まる背景には、論のもとになる出来事や、それが広く受け入れられる社会的状況が存在します。陰謀論自体は、根拠の乏しいものも多く、また、あまりにも突拍子もないものもありますが、単に根拠の不十分な話、不適切な話と考えるのではなく、陰謀論が生じる社会的背景や人の心に目を向け深く考察するための活動です。前の活動で挙げられたものについて、その陰謀論がなぜ生じ広がったのかを調べてもよいですし、陰謀論に関する研究などから、それぞれの説が広まる背景について調べることも効果的です。

## 例

- 2020年に世界中で広がった新型コロナウイルス感染症は、多くの陰謀論を生み出すきっかけともなった。ワクチンに関することや、感染拡大防止のための対策、様々な助成事業について、社会的な不安を背景に、多くの陰謀論がインターネット上に展開された。状況が常に変化し、正確な情報を把握することができない中で、情報が拡散されたことによって、何が正しい情報なのか判断しにくくなったことが、背景にはあると指摘されている。
- テレビで情報を得ている人とインターネットで情報を得ている人、書籍や様々な媒体から情報を得ている人との間の情報量や情報リテラシーの差なども、陰謀論が広がる背景にはあるように思う。

書こう

紹介されている七つの陰謀論から一つ選び、①その陰謀論の具体的な内容、②唱えられた際の社会状況、③唱えられた背景にある不安として考えられるもの、について調べ、まとめよう。(※ 600字程度)

調べた内容について、600字程度で報告文を書く課題です。課題の①から③について、まずは箇条書きでメモをし、情報を整理するとよいでしょう。メモをもとに話し合いを行った上で、

話した内容を論理展開に気をつけて書くという流れにすると、無理なく書くことができます。

## 例

- ①「投資家のソ罗斯は世界征服を企んでいる」という陰謀論について調べた。ジョージ・ソ罗斯は、ハンガリー生まれの投資家だそうだ。ヘッジファンドが定着していなかった1960年代にファンドを立ち上げ、天才投資家と呼ばれたという。
- ②ソ罗斯は、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで哲学の博士号を取得しており、思考と現実の繋がりについて独自の理論を提唱している。また、活動家としても知られており、世界の政治や経済について積極的な発言を行っている。その後、クリントン元大統領のもとで政治に参加したことで、政治的な影響力も持つようになったという。その当時に、上記の陰謀論が巻き起こったそうなのだが、当時の社会状況を調べてみると、アメリカの国内経済は長期に渡って停滞しており、国際競争力も下がっていたことがわかった。
- ③ソ罗斯は2011年には投資家としては引退し、主に慈善活動に力を入れるようになった。しかし、大きな成功を収めた大富豪であることから、影響力の強さを不安視する声があるようだ。このケースでは、経済不況をはじめとする社会状況への不安が高まる中で、力を持つ人々をめぐる陰謀論が生じているように見える。

Lesson  
15

## 人は「未来の自分」をどこまで想像できるのか？

LAPCAST

ACTIVITY  
アクティビティ

話し合おう

五年前の自分をなるべく具体的に思い出して、  
今と何がどの程度違うか話し合おう。

実験で明らかになったことを自分の経験に引き寄せ、過去と今の自分の差(変化)を確認するための活動です。読者の幅広い年齢層を想定し、年数は5年前としてありますが、状況に合わせて年数は調整しても問題ありません。当時、大切にしていたこと、聞いていた音楽、夢になっていた趣味などをメモした上で、現在のものと比較しながら、どの程度変わっているか、その理由は何だと考えられるかについて話し合いを行いましょう。

## 意見の例

- 5年前は高校生だった。その頃は、写真家になりたかった。世界の様々な地域を見て、多く

の得難い経験をしたかと思っていた。著名な写真家のエッセーや作品集を読むうちに、様々な分野について学んで視野を広げる必要を感じた。また、異なる文化を受け入れる力も必要だと感じ、大学に進学し海外に留学してみたいと思うようになった。外国語の学習と進学準備で忙しかったが、塾の帰りに本屋に立ち寄り、海外の風景を撮影した写真集を見たりするのが趣味だった。当時好きだった音楽はアイルランドのロックバンドである U2 の音楽で、四六時中聴いていた。

考えよう

。今好きな歌手やバンドのコンサートチケットに払える最大の金額と、十年後に払える最大の金額、そして、十年前に好きだった歌手やバンドのコンサートが今あるとして、そのチケットに払える最大の金額を思い浮かべ、それぞれの程度の開きがあるか考えよう。

本文で紹介されている、“人は、過去から現在の変化よりも、現在から未来の変化を低く見積もってしまう”というバイアスへの理解を深めるための設問です。本文の実験内容に沿って、トピックは歌手やバンドのコンサートチケットとしてありますが、読者の比較しやすいトピックが他にあれば適宜調整していただいて問題ありません。自身の考えたものと実験の結果として紹介されているものとを比較し、実験結果と同じか、違う場合にはなぜ違ったのかについて考えると、より効果的です。

#### 意見の例

- ・昔、本当に好きだった歌手の曲を購入する際は、いくらでもお金を惜しまなかった。アルバイトなどをして貯金し、日本円で数万円は使ったと思う。今、その歌手の曲をダウンロードするなら、1曲日本円で五百円以内なら払ってもいいと思う。十年後は配信技術が発展し、1曲の値段はさらに下がるかもしれないが、ファンを続けていると思うので払える金額はそれほど変わらず、五百円程度だと思う。確かに、本文で指摘されているように、過去から現在の変化よりも、現在から未来の変化を低く見積もってしまう傾向が自分にもあると感じる。十年前と今との差の方が、今と十年後との差よりもはるかに大きいからだ。
- ・今、大好きなグループが自分の国でコンサートをしてくれるなら、チケット代に日本円で二万円は払えると思う。十年後に、もしまだ活動をしているなら、三万円ぐらいは払えるかもしれない。十年前に好きだったバンドが今コンサートをするとしても、今はファンではないため、チケットを買ってまでして観には行かないような気がする。

書こう

この十年間での自分や社会の変化を踏まえながら、十年後の自分について冷静に考え、住んでいると考えられる地域や、就いていると思われる仕事、将来の価値観や趣味などについてまとめよう。(※ 600 字程度)

人間が「今後はあまり変わらないはずだ」と思い込んでしまう傾向があることを踏まえて、自身の十年後について考え、600 字程度でまとめる活動です。単に将来の夢や希望を述べるのではなく、過去から現在の変化を踏まえて、同じ程度変わると想定した場合にどうなるかを考えてください。例えば、①十年前から現在までの周囲の環境や社会の変化、自分自身の変化、②現在の環境や将来に向けた取り組み、③現在から十年後の変化の予測、という流れで考えを整理し、それをまとめるようにすると、無理なく書くことができます。

#### 例

- ①十年前は中学生で、漠然と外国に憧れがあったものの、具体的には何も知らなかった。結果的に日本にその後留学したが、日本のことも日本語もまったく知らなかった。大学に進学することは考えていたが、大学を卒業したら地元で就職して、実家の近くで生活するのだろうと漠然と考えていた。それから高校に入って日本語の授業をとったことで、日本に興味を持ち、留学したいと考えるようになった。日本の伝統文化が自分の出身国の文化にルーツを持つことを知って、その関係性を学びたいと思っていた。高校卒業後、日本に来て、まず、日本語学校に入学した。外国での生活を送る中で、日本独特の文化や商習慣、ビジネスのスタイルなどに関心を持つようになった。コンビニの商品ひとつとっても自分の国と違いがあり、カップ麺や菓子類もユニークに感じた。そこにはその国や地域の特性にあった販売戦略やデザインがあり、自分はそれを考えるのが趣味になった。外国で生活したり学んだりしている中で得られる視点を活かさないかと考えるようになり、大切にしたいと思うようになった。
- ②今は、日本の大学で経営学を学んでおり、国際企業における企業ブランディングの方法についてももっと勉強したいと思っている。先輩から貿易会社を紹介してもらったので、そこでインターンシップができるように準備を進めている。また、日本語を取得できたことで外国語学習に自信がつき、日本語以外の英語などの言語も学ぶことが趣味になった。今は、英語と中国語のオンラインスクールの授業も受けている。また、日本以外のもうひとつ別の国で修士課程に進学することにも関心を持ち始めている。
- ③十年後にどうなるかは、まだはっきりとはわからない。過去十年間の変化から考えると、自分の興味も、生活している場所も、今と大きく変わっているような気がする。自分の国で、日本語を駆使して日本企業などの取引を担当しているかもしれないし、他の外国語を使って、まったく違う仕事をしているかもしれない。あるいは、他の国で大学院に進学し、どこかの研究機関で研究に従事しているかもしれない。私の場合、周囲の影響を受けやすい

ため、インターン先でどのような人に出会えるかによっても、十年後の未来は変わると思う。出会った人たちや経験したこと、学んだことを大切に、その時々悔いのないベストの選択をして未来を築いていきたい。そのためには、私自身のスキルや感性を磨いておく必要がある。スキル面で言えば、特に語学の学習や専門の学習、キャリア構築のための資格などの学習について計画を立て準備を進めていきたいと考えている。感性面で言えば、小説や音楽や映画、絵画といった人間の表現に関わるもの、そして、考え方や物の見方といった人の思考に関するものに、なるべく多く触れ、視野を広げたい。